



◎上映作品

ザ・思いやり

オキナワの軌跡～33万島民の悲劇の記録

誰も知らない基地のこと

人魚に会える日。

沖縄 第一部・第二部

教えられなかった戦争 沖縄編 阿波根昌鴻・伊江島のたたかい

沖縄列島

うりずんの雨

イザイホウ

ふじ学徒隊

◎トークライブ ゲスト

森口豁

永田浩三

リラン・バクレー

仲宗根啓介と仲間たち

元山仁士郎

佐々木愛

岡本厚

野村岳也

赤坂憲雄

ジャン・ユンカーマン

えこだ沖縄映画祭2016

わらの沖縄  
あなごの沖縄

2016年

9月24日(土)～10月2日(日)

◎会場

9月24日

武蔵大学江古田キャンパス1号館地下1002シアター教室

9月25日～10月2日

ギャラリー古藤



9月24日 土曜日	参考上映 14:00~ ひめゆり戦史 いま問う国家と教育 15:00~ 空白の戦史 沖縄住民虐殺35年	15:30~ トークイベント 森口豁 (ジャーナリスト) + 永田浩三 (ジャーナリスト) ◎会場=武蔵大学1号館地下1002シアター教室 ◎予約不要 ◎入場料=1,000円		
25日 日曜日	13:00~ ザ・思いやり	14:30~ トークライブ リラン・バクレー 「ザ・思いやり」監督	16:30~ オキナワの軌跡	19:00~ 誰も知らない基地のこと
26日 月曜日	13:00~ 人魚に会える日。	15:00~ トークライブ 仲宗根啓介と仲間たち 「人魚に会える日。」制作スタッフ	17:00~ 沖縄 第一部	18:30~ 沖縄 第二部
27日 火曜日	13:00~ 誰も知らない基地のこと	14:30~ トークライブ 元山仁士郎 SEALDs 琉球	16:30~ 教えられなかった戦争	19:00~ 沖縄列島
28日 水曜日	13:00~ ザ・思いやり	15:30~ うりずんの雨	19:00~ イザイホウ	20:00~ ふじ学徒隊
29日 木曜日	13:00~ 人魚に会える日。	14:30~ 沖縄 第一部	16:30~ 沖縄 第二部	19:00~ トークライブ 佐々木愛 女優・「沖縄」出演
30日 金曜日	13:00~ オキナワの軌跡	15:00~ 誰も知らない基地のこと	17:00~ 教えられなかった戦争	19:00~ トークライブ 岡本厚 岩波書店「世界」元編集長
10月1日 土曜日	13:00~ うりずんの雨	16:00~ オキナワの軌跡	18:00~ イザイホウ	19:00~ トークライブ 野村岳也 映画監督 赤坂憲雄 民俗学者
2日 日曜日	13:00~ うりずんの雨	15:30~ トークライブ ジャン・ユンカーマン 「うりずんの雨」監督	17:30~ 沖縄列島	19:30~ ザ・思いやり

◎25日からは各回40名定員制

\*予約した方からの優先入場になります。  
\*お客様の入れ替えほかで上映とトークの開始が少々遅れる場合があることを予めご了承下さい。

◎チケット

大人=予約1,000円 当日1,200円  
大学生・高校生・ハンデのある方=800円  
中学生以下無料  
3枚綴りチケット=2,700円

\*上記料金でトークライブの視聴ができます。  
\*「沖縄」の第一部と第二部は各1,000円です。  
\*28日上映の「イザイホウ」と「ふじ学徒隊」は2作品1,000円でご覧いただけます。

◎ご予約・お申し込み

24日の予約は不要です。  
電話またはメールにて下記までご予約ください。

ギャラリー古藤

電話 03(3948)5328

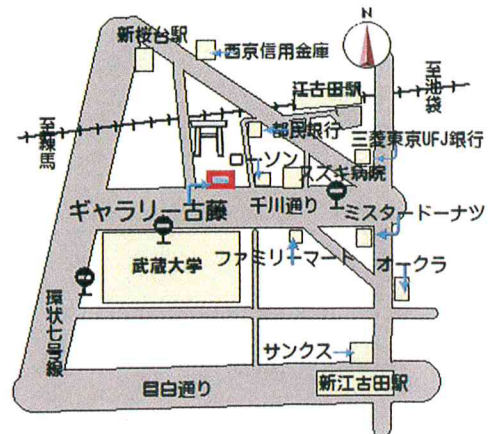
メールアドレス fwge7555@mb.infoweb.ne.jp

HPは《ギャラリー古藤》で検索してください。

◎お問い合わせ

電話 090-3238-9348 (田場)

◎展示と店頭販売 映画祭期間中は、沖縄の写真の展示やグッズの販売を予定しています。



武蔵大学 & ギャラリー古藤へのアクセス

- \*西武池袋線 江古田駅南口 徒歩5分
- \*都営地下鉄大江戸線 新江古田駅 A2出口 徒歩7分
- \*西武有楽町線 新桜台駅 2番出口 徒歩6分
- \*中野駅北口より江古田駅バス停下車 徒歩4分

■9月24日トークイベント  
参考上映作品



撮影：大森一也

## ひめゆり戦史 いま問う国家と教育

◎TVドキュメンタリー 1979年 60分 カラー 監督：森口豁 製作：日本テレビ

## 空白の戦史 沖縄住民虐殺35年

◎TVドキュメンタリー 1980年 25分 カラー 監督：森口豁 製作：日本テレビ

日本テレビの沖縄特派員カメラマン、ディレクターとして沖縄をテーマとする28本ものドキュメンタリーを撮ってきた森口豁作品の秀作2本を参考上映。「ひめゆり戦史」は、ひめゆり部隊の元学徒たちによる戦争の醜さの証言を通して、死地に向かわせたヤマトンチュの学校幹部の責任を問う。「空白の戦史」は、沖縄の住民虐殺に関与した元日本兵の謝罪の旅を追い、戦時下の日本軍の実像を暴く。

©リラン・バクレー



©ドキュメンタリー工房

## ザ・思いやり

◎ドキュメンタリー 2015年 82分 カラー 監督：リラン・バクレー 製作：「ザ・思いやり」製作委員会

日本政府が国民の税金を使い、アメリカ軍のために支払った金は、34年間で6兆円にも上ると言われる。日米安全保障条約で義務づけられているわけではないこの「思いやり予算」とは何か。神奈川在住のリラン・バクレー監督がアメリカにも取材に赴き、当地のアメリカ人へのインタビューを行い、その矛盾を問い質す。沖縄国際大学の前泊博義教授による解説やお笑い芸人の松元ヒロの漫談も交えながら、米軍基地と思いやり予算の矛盾と問題点を明るくタッチで分かりやすく解き明かしていく。



©Effendefilm and Takae Films

## オキナワの軌跡～33万島民の悲劇の記録

◎ドキュメンタリー 1993年 85分 カラー 監督：石原昌家+高宮城繁 製作：ドキュメンタリー工房

アメリカは1944年4月1日、1400隻の大艦隊をもって沖縄本島に上陸。日本軍10万の兵力に対して米軍は総勢54万もの大軍団だった。米軍は上陸の当日に読谷と嘉手納の飛行場を占拠、3日には日本軍は南北に分断されて北部と南部へと敗走。日本軍と行動を共にした少年少女の学徒隊は悲惨な最期を遂げ、民間人の集団自決も起き、犠牲者は15万人にも及ぶと言われる。軍国少年だった高宮城繁と義勇隊の一人、渡慶次ミツ子の壮絶な証言と迫力ある映像で沖縄戦争の悲劇に迫る。



©仲村颯悟

## 誰も知らない基地のこと

◎ドキュメンタリー 2010年 74分 カラー 監督：エンリコ・バレンティ&トーマス・ファツィ 製作：イタリア

世界38カ国716箇所に存在する米軍基地の実態と今日の問題をブラックユーモアも交えてめぐり出した秀作。2007年にイタリアで起きた米軍基地の拡大に対する反対運動をきっかけに、イタリア人のカメラマンと政治研究者の二人が映画制作に着手する。イタリアのピチェンツァ、島民全員が基地建設のために強制移住させられたインド洋に浮かぶディエゴ・ガルシア島、そして、被害と矛盾が最も顕著に現れている沖縄の普天間を大きく取り上げ、アメリカの世界戦略と基地問題の核心に迫る。



©共同映画株式会社

## 人魚に会える日。

◎劇映画 2015年 93分 カラー 監督：仲村颯悟 製作：「人魚に会える日。」製作委員会

本当の沖縄のことなんか、誰も知らない。ならば、伝えなければいけない——大学進学で上京した際に沖縄の外の世界を見て衝撃を受けた仲村颯悟監督が、今の沖縄を伝えるために5年の沈黙を破って撮った作品。監督はじめ、主要スタッフはすべて沖縄出身の大学生で、2014年の夏にクランクインし、戦後70年を迎えた2015年に完成した。また、「沖縄の若者の真っすぐな思いを世界へ」というコンセプトに賛同した歌手のCoccoら、沖縄県内外で活躍するタレントやミュージシャンが出演している。



## 沖縄 第一部・第二部

◎劇映画 1970年 第一部・65分 第二部・125分 モノクロ 監督：武田敦 製作：共同映画株式会社

敗戦から24年経っても闘いを強いられ続ける沖縄の人々をドキュメンタリータッチで描いた力作。第一部「一坪たりともわたすまい」は土地の取り上げと闘う農民たちや、苦悶しながらも逞しく生きる若者、第二部「怒りの島」では軍労働者や教職員を中心としてストライキに立ち上がる島民が感動を呼ぶ。日本復帰前のため、奄美大島でロケ撮影された。地井武男の初主演映画であり、佐々木愛、飯田蝶子、加藤嘉、中村翫右衛門ほか、その後も映画界で活躍する俳優が数多く出演している。



## 教えられなかった戦争 沖縄編 阿波根昌鴻・伊江島のたたかい

◎ドキュメンタリー 1998年 115分 カラー 監督：高岩仁 製作：映像文化協会

明治初期からの日本政府、太平洋戦争後のアメリカによる搾取と圧政に沖縄の人々がどのように抗してきたか。1903年沖縄本島の本部に生まれた平和運動家・阿波根昌鴻を語り部として、沖縄の近現代史を多様な証言や記録写真、映像資料によって問い直したドキュメンタリー。無教会派の思想家・内村鑑三に師事した阿波根の「非暴力で戦い尽くし、『平和の武器は学習』である」という思想と、原点となった伊江島の抵抗運動は、今日の辺野古や高江の闘いに確実に引き継がれていることを知る。



## 沖縄列島

◎ドキュメンタリー 1969年 90分 モノクロ 監督：東陽一 製作：シグロ

沖縄復帰前の1969年に撮られた東陽一監督初の長編記録映画で公開当時、様々な論議を呼んだ問題作。映画は、アメリカ資本の沖縄産コーラの空き瓶が打ち砕かれるシーンに始まり、嘉手納空軍基地からベトナムに飛び立つB52、主席選挙の攻防、石油貯蔵基地に揺れる平安座島、床屋になりたい少女、米軍兵士に相手にされない女……様々な風景、当地の人々の貌と声をスクリーンに散りばめ、沖縄列島の現実が今なお世界に対して激しい不協和音を発していることを強く訴えかけてくる。



## うりずんの雨

◎ドキュメンタリー 2015年 148分 カラー 監督：ジャン・ユンカーマン 製作：シグロ

1945年4月1日に始まり12週間にも及んだ沖縄の地上戦がどのようなものだったかを日米両国の元兵士や住民への取材や米軍の記録映像で解き明かすとともに、占領期から今日の辺野古新基地建設に至る沖縄の人々の深い失望と怒りの根源を浮かび上がらせる。監督は「アメリカは沖縄を戦利品として、第二次大戦後も沖縄を拠点に朝鮮、ベトナム、中東での戦争を継続してきた」とその犯罪性を告発する。真の平和を求め、不屈の闘いを続ける沖縄の人々の尊厳を描いた渾身のドキュメンタリー。



## イザイホウ

◎ドキュメンタリー 1966年 49分 モノクロ 監督：野村岳也 製作：海燕社

沖縄の久高島は古くから神の島として知られ、年間に30にも及ぶ神事が暮らしに組み込まれるとともに、島人によって今も厳粛に受け継がれている。そのなかでも「イザイホウ」は12年に一度、午年にしか催されない稀少にして最大の神事で、4日間の本祭を中心に1カ月余にわたって行われる。ドラマチックにして、歌と踊りの原点とも言うべきこのイザイホウは、1978年を最後に消滅したこともあり、1966年に撮影された本作は、文化人類学的にも価値の高い、極めて貴重な記録映像である。



## ふじ学徒隊

◎ドキュメンタリー 2012年 48分 カラー 監督：野村岳也 製作：海燕社

沖縄戦には女子学徒隊10校およそ500人が動員された。本島南部では、ほとんどの学徒隊が半数近い戦死者を出すなか、わずかに3名の死者にとどまった積徳高等女学校のふじ学徒隊が体験した凄惨な戦場、その血と涙の記録である。死に瀕する傷病兵の看護に当たりながら、迫りくる死とその誘惑にいかにか打ち克ち、生き残ることができたのか。70年近い歳月が経っているにもかかわらず、元学徒の女性たちの語る色褪せることのない記憶、亡き友への痛恨の思いが胸に生々しく迫る。

### ■上映協力・写真提供

森口節  
「ザ・思いやり」事務局  
株式会社ドキュメンタリー工房  
映画「人魚に会える日。」製作委員会  
アンブラグド  
共同映画株式会社  
映像文化協会  
シグロ  
海燕社

